

## 第 1760 回例会報告

令和4年10月20日(木) 晴れ

### 会長告知

#### 「大切な奉仕活動」

会長 萩田 均

先日、14期会長であった杉田博さんがお亡くなりになった訃報に接しました。写真が趣味の優しい寿司屋さんでした。今も美しい杉田さんの写真を部屋に飾っています。ご冥福をお祈りいたします。

13日の例会は大変有意義な卓話をMCLの西村さんにいただき、その後、つつじが丘学園の子供たちとMCLの子供たちの ZOOM による交流ができました。第一歩を踏み出したばかりではありますが、小笠原青少年奉仕委員長のLINEのコメントにもありました通り、一つの事業として良い方向性が見えました。これからは国際奉仕委員会と青少年奉仕委員会の共同事業が大輪の花、開きますことを願います。

16日は1760回例会、ロータリーデーの清掃活動を諏訪湖RC、諏訪RC、諏訪ローターアクト、そして、様々な活動を共に実施している下諏訪社中学校43名、下諏訪中学校17名、ガールスカウト16名、つつじが丘学園4名の参加をいただき、総勢130名による諏訪湖清掃ができました。諏訪湖の環境について考えるための良い機会として実施でき、皆さんと天気に感謝いたします。

当初は18日に3クラブ合同例会の予定でしたが、ホストの岡谷RCよりコロナのため中止の連絡をいただき、臨時理事会の決議により、本日の例会を、社

会奉仕委員会開催の例会にしました。

10月6日の例会において、以前の事業の一部を話させていただきました。砥川へのアマゴの放流を中止したことは、やはり調査、研究を怠らず例会等により、勉強してきたことが、より良い活動に代わってきたことと思います。本日、この例会もそれにのっとり、提起されたヒシの問題について様々な角度からの調査研究を、テーマに卓話が予定されています。諏訪湖ロータリークラブが素晴らしき運動体であることは、例会の中で話をしてきました。事業の一つ一つに必ずチェック、プラン、ドウをしてきたことによるものと思います。これからはチェック、プラン、ドウを忘れずに素晴らしき奉仕していきましょう。

ービスをすべきです。今でも、調べれば何とかなる可能性があります。しかし、完全ではありません。これからは皆さんの協力が必要です。

### ◇幹事報告◇

#### 【理事会報告】

##### 1)11月例会予定

日	曜日	回	内 容	担 当
3日	木	休会	文化の日	
10日	木	1762	諏訪の地に住み着いた若者の講話 その1	クラブ会報・雑誌広報委員会
17日	木	1763		国際奉仕委員会
24日	木	1764	諏訪の地に住み着いた若者の講話 その2	クラブ会報・雑誌広報委員

♪出席報告		♪ニコニコBOX		♪今週のこトバ	
会員数	35人	11人	17,000円	ミンダナオ子供図書館(MCL)では、水田10ヘクタール増設の資金を集めるためにクラウドファンディングを始めていますが、なかなか資金が集まりません。皆さんの協力をお願いいたします 溝口幸二 萩田会長、長崎さん、本日の諏訪湖浄化についてのお話楽しみにしています。宮坂英貴 萩田さん、長崎さん、真剣に拝聴します 御子柴文夫	
出席対象	34人	累計	265,000円		
出席者数	17人	目標額	60万円		
出席率	50.0%	達成率	44.2%		
前回修正	65.7%				



2)2022～23年度 地区大会について  
参加を要請します

### 【報告事項】

1)ミンダナオ島子ども図書館の水田プロジェクト  
に、協力をいたしました。

明細メールを回覧いたします。”

### 【受領文書】

1)ハイライトよねやまが届きました。

2)コーディネーターニュースが届きました。



## 第1759回例会

### 「諏訪湖ロータリークラブ

#### 諏訪湖浄化活動の現在地」

担当 社会奉仕委員会

#### ヒシからクロモへ

会長 萩田均

諏訪湖のヒシについての文献はヒシの良しあし  
についてのことは記載されず、ヒシの中の水の流速  
流量やそれぞれの推進の温度変化についての記  
載が多くありました。水質の悪いアオコの大発生の  
ころ、どなたかの提唱により水質改善のため、ヒシや  
ホテイアオイ、クロモなどの水生植物を増やすことを  
推奨してきたことがあった。

ヒシとは何なのか、調べていくうちに福井県三方  
湖里山里海湖研究所の研究結果にたどり着きまし  
た。三方湖は全湖面をヒシが繁茂し、どのようにする  
かを議論し、ゾーニングとして必ず刈るところ、時々  
刈るところ、まったく刈らないところに分け、いまは実  
施しているとのことでした。

ヒシは生えてきた芽を摘めばそのあとは生えてこ  
ない性質を持っているため扱いはたやすいのです  
が、先日の例会に諏訪湖エイトピークトライアスロン

の小島さんが話していたことで、ヨットハーバー沖は  
クロモが繁殖していて、泳げず下諏訪漕艇場をスイ  
ムのスタートとした話がありました。漕艇場は漕艇協  
会の努力により船の支障があるクロモを湖に入って  
根から毎年とっているため、レースができています。



ヒシの刈ったところにはクロモが繁殖して、船の運  
航を阻害しています。ヒシは表面上目立つ存在で  
象徴的ですが、そののちに繁茂を始めるクロモや湊  
において繁殖し始めているホテイアオイの問題が連  
続的に始まることを心しなくてははいけません。三方  
湖の水生植物刈り取りはワイヤーにより引き抜く方  
法での刈り取りをしているようです。この方法はそれ  
ぞれ根から引き抜くことができそうなので期待してい  
ます。次につづくクロモなどにも気を付けて考えて  
いけばよい結果が出るでしょう。三方湖の結果も注  
視していきます。

### 諏訪湖浄化活動の現在地

長崎政直会員

長崎会員からはPDFで原稿が届きましたので次  
ページより記載いたします





## 諏訪湖ロータリークラブ 諏訪湖浄化活動の現在地



諏訪湖ロータリークラブの 諏訪湖浄化活動の原点は、  
〈諏訪の湖を心の鏡として奉仕の誠を尽くそう〉という  
創立宣言で、心は「奉仕の理想に燃えながら“湖”を友  
学奉仕の精神を映し出すクラブの大きな鏡として会員の  
熱い友情と親睦を深めていく」ということです。

5期、5周年、ロータリーを考える委員会から〈明日の  
諏訪湖ロータリーを考える提言〉として「・・・私達の  
名称「諏訪湖ロータリークラブ」は、諏訪湖の存在なくしては命名され得なかったことも  
想起し、諏訪湖浄化、自然の回復といった問題に何らかの形で取り組み研究していったら  
どうでしょうか。この問題で即効性のある解決方法を見つけることは困難ですが、敢えて  
今後長期にわたり、「諏訪湖ロータリークラブ」が常に帰着する“心”の原点として、こ  
のテーマを提言します。」と提言があり、採択されました。

以降、今期に至るまで営々として活動してきました。その クラブ活動内容は、



★浄化活動団体への参加：下諏訪町諏訪湖浄化推進連  
絡協議会・諏訪湖創生ビジョン会議

さらにロータリアンの個人参加として、しなとべ・諏  
訪湖クラブ・みずベリング等があります。

★諏訪湖研究・浄化活動研究と研究支援として、クラ  
ブ内研究や信州大学・東京理科大支援がなされています。  
くわえて、★湖岸清掃（ゴミ拾い）

★浄化活動資金の積み立て・活用・管理としては、県への残存酸素計測器贈呈や諏訪湖  
読本製作資金援助がなされました。

★浄化意識の啓蒙活動としては、〈水のコンサート〉〈広葉樹の植樹・管理〉〈浄化教  
育への支援〉等、ガールスカウト・ボーイスカウト・下諏訪中学校生徒・高島小学校生徒  
との協働、〈諏訪湖読本配布〉などです。

こうした37年間の活動のなかで、住民の諏訪湖に関わる課題意識が変化しています。



滞留するゴミやアオコの時代からヒシの時代へと意識が変  
わりつつあります。ゴミ・アオコの時代は、下水道への接  
続・流入河川域での施肥の減量適正化・清掃活動・ゴミ投  
棄の禁止意識向上等々により、解消しつつあり、菱の時代（湖  
中に沈む流木・浅くなる湖底）等が課題として意識され始  
めています。

また、浄化の視点も水質向上の視点から総合的視点へ：きれいな諏訪湖の実現と未来へ  
の継承、〈どのような諏訪湖が未来へ継承したいきれいな諏訪湖なのだろうか〉を考える  
時代になっています。＊透明度が高く、水中魚介類（魚やエビや貝など）、水中植物（水  
草）が見える。＊湖を源にしている生物（ヤゴ・赤虫）等が生き残れる。＊湖内で様々な  
遊び・スポーツができる。＊湖を利用して経済活動（レジャー産業や漁業）ができる。そ



んな諏訪湖がより具体的に考えられるフェイズ（目標の具体化）に来ています。こうした状況下で、菱刈り船導入が提唱されました。提唱者の思いは、きれいな諏訪湖の実現と未来への継承です。（ロータリー活動に相應しいか。）

観光的見地（景観）及び湖面・湖中利用、湖の生態的見地から、諏訪湖の菱をなんとかしなければなら

ない。菱刈りは今時の浄化課題の一つである。県では、毎年、菱刈り船をチャーターして費用対効果を考え、最盛期 8 月～9 月に効率よく刈り取っている。事業費は1000万円くらいだろう。

菱刈り自体は、6 月頃の発生時期に刈り取れば、現在のように成長して繁茂することは無いだろうと予測されているが、試みていない。管理する県にもそうした試みをする計画は無い。県では水質保全がテーマであって、景観保全、水面利用という視点は希薄である。

そこで、5 月～6 月の時期に刈り取りができる器機を設置した船を諏訪湖ロータリークラブ浄化基金を使って購入し、パイロット的に試みてみようという提案である。

国には、水質保全・治水の問題意識はあるが、湖の全体的課題：経済活動利用・水と親しむ活動等の総合的問題意識は無いので、改善のための資金は、水質保全・治水に限られている。県には、水面利用の地域要求があるので、事業費が多少用意されている。



菱刈り事業のフローを考えてみました。

発見・思い付き・分析（1. 社会が必要としているか。）

①観光産業を維持するために、景観上相應しくない。

湖面利用【ポート・カヌー・遊覧船・釣り・水遊び等

のレジャーや花火・船舶免許講習会】の障害になっている。

②漁業を維持するための障害になっている。（船渡からの出船・漁場）

③枯れた菱が湖底に沈潜し、湖底のヘドロ化・湖の富栄養化の一因になっている。

プラン：菱の除去（3. 効果が期待できるか。）

除去方法：菱刈り船の導入・刈り取り 刈り取り時期：5/6/7月

何処を刈るのか：船渡（港）先・湖岸・湖面利用箇所

実行：事業への着手・実行（2. 多数が賛同して参加できるか。）

；器機：菱刈り船を使って刈り取り作業 協力者の発掘：

課題（5. 継続できるか。4. 事業費の協賛が得られるか。）

赤字は小林強の奉仕活動の原則

\*活動継続の課題 御子柴氏 立ち位置論

ロータリークラブが、単独で菱刈り活動を継続的に行うことは、困難であろう。

そこで、菱刈りを行える他団体、個人に、菱刈り船（器機の提供）や資金を提供して、実施してもらう。ロータリアンの積極的参加が必要。

\*資金における課題

初期費用：基本装置購入資金は、諏訪湖浄化基金＋地区資金によってまかなえる。

活動維持費：毎年、140,714 円がかかる：諏訪湖 RC の財務状態で支出可能か？

こうした菱刈り事業を企画している中で、ヒシを刈って良いのかというという疑問が発生しました。そこで、諏訪湖浄化運動の先達、沖野先生に聞いてみました。

科学的知見では、〈菱等の水中植物は富栄養化（COD・BOD の数値）を改善するには効果がある。水質保全には役立っている。湖面利用のため、どの程度の刈り取りをして良いかは、菱面積では10%、重量では500トンくらいとの認識をしているが、数値は確定できていない。近年、水質の浄化が進んでいるので、刈り取り量を増加させても良いとの方向性もある。尚、菱は現在成長にとって最適状態にあり、刈り取ったあと、別の課題が発生する。クロモ等の繁殖が始まり、温暖化により（湖南で進行中）ホテイアオイの繁殖へと進む可能性もある。

菱の発芽時期（5/6/7月）の刈り取りは、水深部での刈り取りをする。但し、刈り取った後には、湖底に残った新しい芽が勢いよく成長する。菱に吸収された窒素や・リンは、菱の実に凝縮され、枯れた後、水中に戻ることは少ない。

\*沖野先生によるこの指摘によれば、菱の刈り取りは、一定の制限（湖面活用についての必要範囲）で行わなければならない。

\*全面刈り取りには、次の課題が出てくるので予測をしておかなければならない。ということでした。

さて、ヒシ刈り取り事業が今年度提起されてより、クラブ内の賛否、随分ギクシャクして、あらためて、ロータリーとはなんぞや、その運営はどうあるべきかを考えてみる必要が出ています。



10月6日に、蒲池会員が「ロータリー精神の根底は、性善説と民主主義、そして手続き」だと話されました。私もそう思っています。性善説とは、「人間は悪意と善意の混沌です。正しい知力によって善意が引き出されます。また民主主義で大事なものは、意見が分かるとき、徹底的に議論し、合意点・妥協点を見つけ、協働して事に当たることです。」そして、13日例会では、MCL の西村奈々子さんは、MCL の100人の宿舎で、みんな仲良くくらしているのは、「他者に対する愛と尊重（Love&Respect）」の心だと言いました。ロータリーも同じだと思います。尚、手続きの齟齬は、修正できるとも思っています。



ヒシ刈り事業を推進しますか？

決めるのは、私たちロータリアン、個々の浄化意識です。